

平成26年度 富里市ジョイント・スクール構想

～小学校から中学校への滑らかな接続により、義務教育9年間で子どもたちを育てていく～

ジョイント・スクールとは、従来の小・中連携の考え方をより発展させて、小・中学校、義務教育9年間の教育課程上の接続を重視した学校運営を目指す考え方である。「中1ギャップ」といわれる中学校不適応生徒の現状を解消し、児童生徒の学びと成長・発達の連続性を保証し、「生きる力」の育成を図るためにも、3中学校区のあり方を明確にし、小・中学校9年間の接続性や統一性をもった学園構想の考え方を基盤とした教育活動の充実が必要である。

平成26年度より「北学園」を研究推進指定校として、それぞれの学園独自で特色ある小・中連携「ジョイント・スクール」活動を推進していくものとする。

《豊かな人間力を養うジョイント》

- 小・中連携共通生徒指導項目に基づき、9年間の共通した生活のルールを守っていきけるようにする。
- 児童・生徒の積極的な交流活動を行う。
 - ・運動会や合唱祭など年間の小・中学校の様々な行事の中で小・中合同で取り組める行事について年度当初の計画に盛り込み、積極的に交流を図っていく。
 - ・小学校での体験活動に中学生がボランティアとして参加したり、小学生が中学校の活動に参加するなど、小・中学校の縦割り活動を積極的に企画運営していく。
 - ・小学6年生の部活動体験等も年度の早い段階から数回実施していく。
- PTAや地域の方々と協力したゴミゼロ運動や環境整備作業、防災訓練等にも学区の小・中学校合同で参加していく。

《小・中学校教員のジョイント》

- 小・中学校で共通した形の「めざす児童生徒像」や「めざす教職員像」を設定する。
- 教育課程における接続の課題を解消するため外国語活動と英語、算数と数学、道徳等において指導計画を見直す。
- 小・中学校で授業参観、交流を積極的に行う。
 - ・小・中学校相互の授業参観については、多くの職員が参加できるよう計画的に行う。
 - ・小学校5、6年生において中学校での教科担任制を意識した授業を中学校教員とT・Tで行う。(英語、理科、保健体育等)
 - ・小学校の教員が中学校の道徳や特別活動の授業を中学校教員とT・Tで行う。
- 小・中学校教員の情報交換会や夏季休業や市教研等の機会を利用して計画的に小・中合同研修会を行う。
- 全国学力・学習調査等の分析結果を小・中学校で共有し、それぞれの課題から学力向上に向けての取組を共通理解していく。

《ジョイント・スクール推進の基本的な考え方》

- 現行の6・3制を基盤として義務教育9年間を見通した教育を行う。
- 既存の中学校区による学園体制で行う。
- 児童・生徒の積極的な交流活動を行う。
- 小・中学校教員の指導交流を行う。
- 児童・生徒に生きる力の三要素を身につけさせる。
～「生涯にわたる学習力(確かな学力)」「社会生活を送る人間力(豊かな心)」「健康生活を送る元気力(健やかな体)」～

《学園構想の考え方》

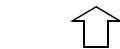
- ・既存の中学校区を一つの学園として、現行の6・3制により義務教育9年間を見通した教育を行う。
- ・各学園において、9年間の児童生徒の学びと成長、発達を考慮した地域の特性を生かした特色のある小・中連携、交流活動を積極的に推進する。

【北 学 園】 【中 央 学 園】 【南 学 園】

○富里北中学校

○富里中学校

○富里南中学校



ジョイント

ジョイント

ジョイント



○日吉台小学校

○富里小学校
○富里第一小学校
○根木名小学校
○七栄小学校

○富里南小学校
○浩養小学校
○洗心小学校

《学力向上に向けてのジョイント》

- 「学習の手引き」(小・中共通)を作成
 - ・授業に望む姿勢、態度、発表の仕方、ノートの取り方等、学習におけるルールについて、小・中学校9年間の発達段階に応じて共通した形で身につけられるようにする。
 - ・家庭学習の習慣化について小学校から中学校の接続がスムーズに行われるように発達段階に応じた家庭学習への取組や学習プリント、宿題の出し方の工夫等、小・中学校で継続的に指導できるよう共通理解を図る。
- 夏季休業等を利用して、中学校区ごとに会場を設定し、保護者や地域の方々、中学生のボランティアを講師とし、小学生への学習会を行い、小・中学生が共に学び合う機会を積極的に設けていく。
- 小学6年生を中心に中学校の授業を見学、体験できる機会を積極的に増やしていく。

《ジョイント・スクール推進組織》

